

弥生時代集落・西側（にしがわ）遺跡の調査

豊橋市文化財センター

1. 調査原因

豊橋牛川西部土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査

2. 西側遺跡の性格

平成14年から断続的に発掘調査を実施しており、現在までに23,000平方メートルの発掘調査を終えています。今まで、弥生時代後期の集落跡を中心に、古墳時代、古代、中世の各時代の集落跡が確認されました。

3. 今回の発掘調査の概要

調査期間：平成25年5月21日～11月23日（予定）

調査面積：720平方メートル

調査機関：豊橋市教育委員会

4. 今回の調査の成果

- 1 弥生時代後期前葉（1世紀）の竪穴建物（たてあなたても）を確認しました。
- 2 弥生時代後期前葉の方形周溝墓（ほうけいしゅうこうぼ）を確認しました。
- 3 古墳時代から古代にかけての掘立柱（ほったてばしら）建物跡を確認しました。

西側遺跡は、弥生時代から近世続く「複合遺跡」です。今回の調査成果で特筆されるのは、弥生時代後期前葉の竪穴建物（住居）と方形周溝墓（墓）とが近接して見つかったことです。

西側遺跡は今までの発掘調査でも、竪穴建物や方形周溝墓が見つかっていましたが、今回は極めて近い場所で確認されました。西側遺跡は「環壕（かんごう）」と呼ばれる防御兼区画施設の堀によって外界と区別され、内部には居住域と墓域で構成されていたようです。今回はその具体的な姿をより明らかにすることができました。

東三河地方では、全体像が明らかになった弥生時代の集落はありません。西側遺跡は、調査の蓄積によって全体像を把握することができる、モデルケースとなることでしょう。

このほか、古墳時代中期（5世紀）の竪穴建物跡や、古墳時代から古代と考えられる掘立柱建物跡が検出されています。掘立柱建物跡は、総柱（そうばしら）建物と側柱（がわばしら）建物の2種類で構成され、建物の軸線はほぼそろっていました。

5. 現地説明会

日時：11月23日（祝） 10:30からと14:00から

会場：豊橋市牛川町西側 西側遺跡発掘調査現場（地図参照）

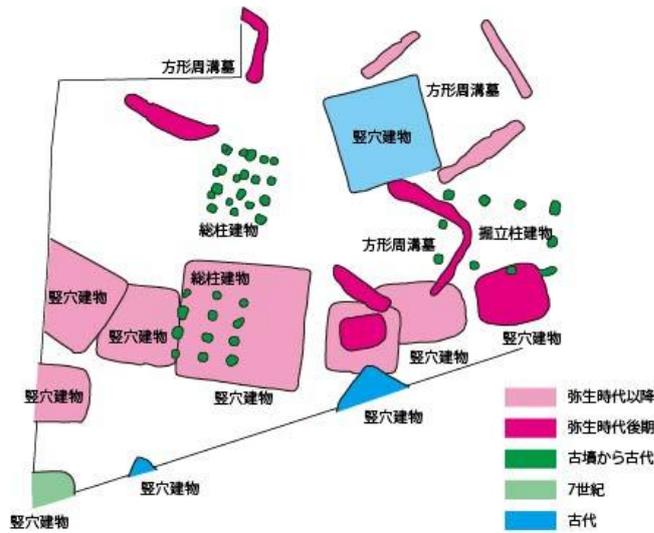
内容：出土品の展示、調査担当者による説明、資料の配布

その他：当日は公共交通機関をご利用ください。

※豊鉄バス 豊橋和田辻線「牛川」バス停下車、北西へ徒歩10分



会場の位置



調査区内の遺構の配置



弥生時代後期前葉の竪穴建物跡



掘立柱建物跡（総柱）